

代表者名	菊池 勇咲	所管部課名	産業経済労働部観光課
所在地	小坂町十和田湖字鉛山無番地	設立年月日	平成9年12月5日

【沿革及び県の出資理由】

歴史的・文化的価値の高い十和田ホテルを後世に伝えるとともに、同ホテルの効率的な運営を図り、もって十和田地域の観光の振興に寄与することを目的に県等の出資により平成9年12月設立。

【出資者】（21年度当初）（千円、%）

区分	団体数	出資額	構成比
秋田県	1	100,000	40.0
市町村	3	25,000	10.0
その他	15	125,000	50.0
計	19	250,000	100.0

【事業】

①主たる業務

十和田ホテルの諸施設の管理運営業務
酒類、食料品、土産物等の販売
上記各号に付帯する一切の業務

②事業実績

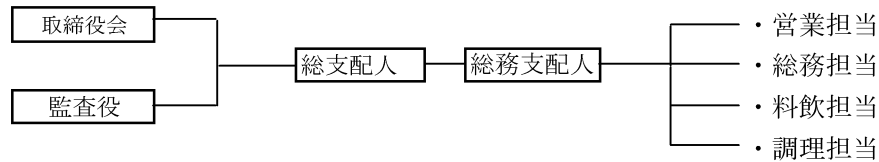
事業名等	18年度	19年度	20年度
宿泊客	18,111	17,722	14,359

③20年度事業概要及び21年度事業計画・目標

平成20年度は、4月の鳥インフルエンザ、6・7月に発生した岩手・宮城内陸地震と岩手県沿岸地震の影響により宿泊利用人員が大きな被害を受け、前期比▲3,363名 ▲18.9%となりました。営業費用全般において厳選して削減した結果、営業費用全体で351百万円 前期比▲21百万円 ▲5.7%の計上となりました。平成21年度は新しい販売チャネルへのセールス、商品ラインナップの見直しを図り「売上の拡大、費用の見直し」を追及してまいります。

【組織】

①運営機構



②役員数 (H21.7.1現在) (人)

	取締役	監査役
常勤	1	
内、県退職者		
内、県職員		
非常勤	8	1
内、県退職者		
内、県職員	1	
計	9	1
内、県関係者	1	0

③職員数 (H21.4.1現在) (人)

正職員	12	正職員 平均年齢	正職員 平均勤続年数
内、県退職者			
出向職員	1	25.3歳	2.6年
内、県職員			
臨時・嘱託			
内、県退職者			
計	13	正職員平均年収	3,850千円
内、県関係者	0		

役員報酬支給対象者数	2人
役員報酬支給対象者平均年齢	56歳
平均役員報酬額	11,400千円/年

【財務】

①損益状況 (20年度) (千円)

	金額
経常収入 A	285,525
受託事業収入	
補助金収入	
自主事業収入	285,106
運用益収入	
その他	419
経常支出 B	351,322
人件費	121,789
その他	229,533
経常損益 C = A - B	△ 65,797
経常外収入	
経常外支出・諸税	300
当期損益	△ 66,097

②財務状況 (20年度末) (千円、%)

	金額	構成比
流動資産	66,753	86.4
固定資産	10,477	13.6
資産計	77,230	100.0
流動負債	10,414	13.5
短期借入金	0	0.0
固定負債	0	0.0
長期借入金	0	0.0
引当金等	0	0.0
負債計	10,414	13.5
資本金	250,000	323.7
剰余金	△ 183,184	△ 237.2
資本計	66,816	86.5
負債・資本計	77,230	100.0

(千円)	
県の損失補償額	県の債務保証額
0	0

(千円、%)			
退職給与引当状況	要支給額	引当額	引当率
	0	0	%

【県の財政支出】

	18年度	19年度	20年度	支出目的・対象事業概要等
補助金	0	0	0	
委託費	0	0	0	
貸付残高	0	0	0	

1 主な経営指標

項目		単位	18年度	19年度	20年度	18-19増減	19-20増減
健全性	自己資本比率	%	94.12	93.31	86.52	▲ 0.81	▲ 6.80
	借入金依存率	%	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	流動比率	%	1,573.82	1,352.80	640.99	▲ 221.02	▲ 711.81
収益性	剰余金 (▲欠損金)	千円	▲ 77,940	▲ 117,087	▲ 183,184	▲ 39,147	▲ 66,097
	経常利益率	%	1.12	▲ 11.66	▲ 23.04	▲ 12.78	▲ 11.39
	総資本利益率	%	2.10	▲ 27.28	▲ 85.20	▲ 29.38	▲ 57.92
発展性	経常収入額	千円	341,777	333,383	285,525	▲ 8,394	▲ 47,858
効率性	総資本回転率		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	職員1人当たり経常収入	千円	26,291	27,782	17,845	1,491	▲ 9,937
	人件費比率	%	34.12	35.21	42.65	1.09	7.44

2 経営目標の達成状況

経営目標			18年度	19年度	20年度	21年度
経営改善指標	経常利益額 (千円)	目標	20,000	20,000	20,000	5,110
		実績	3,834	▲ 38,857	▲ 65,797	
	売上高経常利益率 (%)	目標	5.7	5.7	5.7	1.4
		実績	1.1	▲ 11.7	▲ 23.1	
事業成果指標	売上高 (千円)	目標	353,000	353,000	353,000	369,600
		実績	341,695	333,383	285,106	
	個人客宿泊人数 (人)	目標	14,600	14,600	14,600	14,170
		実績	14,500	12,943	10,377	
顧客満足度指数	目標	83	87	86	88	
	実績	86	85	89		

3 経営状況及び課題、経営目標の達成状況についての自己評価

第12期の経営状況は当期利益▲66百万円と赤字計上。大きな要因は6・7月の地震被害であった。

このような状況下、当社は6・7・9月にかけて各旅行業者を訪問し、各商品への送客を依頼したが、8月以降も予約数が伸びず、結果宿泊利用人員は前期比▲3,363名 ▲18.9となった。

今後は、新しい販売チャネルへのセール・インターネット予約の拡販と商品のラインナップ見直しを実施し、売上拡大を図る。

<顧客満足度調査の結果を受けて実施する取組>

- ・社内インスペクションの実施と総支配人によるウォークルにてお客様指摘事項を確認し改善を図る。(お客様一声の収集)
- ・9月1ヶ月顧客アンケートの実施
- ・JTB評価点の情報開示及びじゃらんの顧客評価の情報開示

4 総合評価 (計算書類等の資料及びヒアリングによる評価)

I 概ね安定した経営内容	II 一層の努力を要する経営内容
<p>・宿泊客数は、計画比4,771名の減少、前年度比3,363名減少の14,359名となったため、経常収入は計画を76百万円下回っている。経常支出は計画に対して7百万の減少にとどまったため、経常損失は前年度を上回る65百万円となった。</p> <p>・地震等の予期できない不利な事情はあるものの、経営体力は著しく悪化した。</p> <p>・新年度の予算は、宿泊客18,590名、単価800円アップを前提にしているが、出足は順調でなく資金不足問題が懸念される。簿外リース残は12百万円である。</p>	